

病院ボランティア表彰式・感謝状贈呈式を行いました

当院では、患者さんがより快適な環境で安心して治療を受けていただけるよう、地域の皆様による環境整備や玄関ホールでの案内、患者図書室「ふらっと」の補助、コンサート等、様々な場面で個人および団体のボランティアの皆様にお世話になっています。

平成29年12月22日(金)、1年間ご尽力いただきました、18団体と23名のボランティアの皆様、井川病院長から表彰状並びに感謝状の贈呈がありました。

贈呈式終了後は懇談会が行われ、様々な提案や意見をいただきました。

当院では、新たにボランティアをしてくださる方を募集しています。お気軽にお問合せください。

問合せ先 医療サービス課 ボランティア担当 TEL 0853-20-2068



島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

1月15日～2月14日

対象者： 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	時間	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
1/15(月)	9:30～11:30	平成29年度 島根県がんピアサポーター相談会	外来中央診療棟3階 カンファレンスルーム「だんだん」	一般	島根大学病院
1/18(木)	18:00～19:30	HIV/AIDS講演会 「HIV感染症を早期に発見するために」	臨床講義棟1階 小講義室	医療 本学	島根県健康福祉部薬事衛生課、島根大学病院、島根大学医学部医師会
1/20(土)	13:00～18:10	第4回 島根呼吸器診療スキルアップセミナー	外来中央診療棟2階 クリニカルスキルアップセンター	医学部4年生 医学部5年生 初期研修医	日本呼吸器学会 中国四国支部
1/22(月)	15:00～16:00	誰でも参加出来る糖尿病教室	外来中央診療棟3階 カンファレンスルーム「だんだん」	一般	島根大学病院糖尿病ケアサポートチーム
2/6(火)	18:00～19:00	看護師のためのがん診療セミナー	B病棟4階カンファレンスルーム	医療	先端がん治療センター、腫瘍・血液内科
2/11(日)	14:00～16:00	第13回脳卒中市民公開講座	看護学科棟1階N11講義室	一般	(公社)日本脳卒中協会 島根県支部、島根大学医学部内科学第三

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



Shimane University Hospital
島大病院ニュース

2018年

1月
Vol.51

NEWS

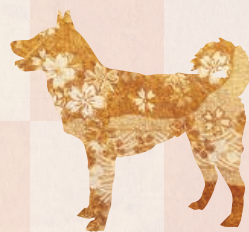
CONTENTS

- ・ 年頭のごあいさつ 2018
- ・ 患者さんの食生活を支える栄養食事指導
- ・ 病院ボランティア表彰式・感謝状贈呈式を行いました
- ・ 島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報



年頭のごあいさつ 2018

院長 いがわ みきお
井川 幹夫



あけましておめでとうございます。昨年も地域の医療機関から多くの患者さんをご紹介いただき、誠に有難うございました。心より御礼申し上げます。本年も大学病院としてのミッションを果たすために、先進的医療・高度医療の提供、がん医療、急性期医療と救急医療の充実、優れた医療人の養成、透明性の高い医師派遣の実施、臨床研究の推進等を継続的に進めてまいります。

総合ハートセンターのトピックスとしては、昨年8月に稼働を開始した高度外傷センター棟に設置したハイブリッド手術室を活用した、大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁留置術(TAVI)が島根県で初めてスタートすることです。特に高齢化率が高い島根県においては開心術に比べて低侵襲であるTAVIの実施が可能となることは意義深いと思います。先進医療の承認件数は2016年度の2倍の12件に増加し、実施件数も順調に増えています。周産期母子医療センターは、医療機器を整備し、拡充した施設をフル稼働させ、重症度の高い新生児患者に対応しています。がん医療では、これまで本院が県内拠点病院のハブ機能を果たしていますが、先端がん治療センターを中心としてPrecision Medicineユニット、眼腫瘍ユニット、希少がんユニットなどが専門的ながん医療を提供しています。ロボット手術支援システムのダ・ヴィンチは最新のXiに更新し、細かいアームと内視鏡、アーム可動域の拡大などにより一段と精緻な手術、手術時間の短縮、安全性の向上が実現しており、子宮頸がん、前立腺がん、腎がんなどの手術に活用しています。他には、遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)に対するBRCA遺伝子検査、臨床遺伝カウンセリング、リスク低減卵巣卵管切除術(RRSO)の実施体制を整え、診療を行っています。

臨床研究実施体制の強化が大学病院としての重要な目標の一つであり、認定臨床研究審査委員会の設置を目指しています。その先には検査部、輸血部、病理部がISO15189の認証を取得したことを基本として、ハードルは極めて高いことは認識していますが、がんゲノム医療中核拠点病院の指定に向けた整備を図りたいと考えています。本年も、診療および透明性の高い医師派遣を通して、地域の医療に一層貢献できる病院となるために日々改善に努める所存ですので、ご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



患者さんの食生活を支える 栄養食事指導

栄養治療室 室長 ひらい じゅんこ
平井 順子

栄養食事指導には、個別指導と集団指導があり、管理栄養士・栄養士が医師の指示に基づき、患者さん個々の生活環境や嗜好も考慮した望ましい食習慣を獲得できるようにサポートを行っています。疾病に応じた食事について説明するとともに、食事の振り返りで気づいた問題点をどうすれば改善できるのか患者さんと一緒に考えます。また、体組成分析器を用いて体成分(体重、骨格筋量、体脂肪量、体水分量など)を測定し、患者さんの身体の変化も確認します。

栄養食事指導は糖尿病、腎臓病、高血圧症などだけではなく、がんの治療中で食事を十分にとることができない患者さん、摂食機能・嚥下機能が低下した患者さん、栄養状態がよくない患者さんなどに対しても行っております。栄養相談室には調理実習室が併設されており、調理器具(ミキサー)やトロミ調整剤などを実際に使い調理実習も交えた栄養食事指導も行ないます。患者さんはもちろんですが、食事を準備されるご家族の不安も取り除くことができるよう患者さんの生活環境にも配慮した指導を行ないます。栄養士が患者さん一人ひとりの食の問題を確認し、食べやすい食事の提案をいたします。適切な栄養食事指導を実践することで、患者さんの健康の維持・増進、疾病の予防にもつながると考えていますのでよろしくお願いいたします。

体組成分析器



食事でお困りのことはありませんか？

- 治療をはじめて食欲がなくなった。
- 吐き気があって食べにくい。
- 口内炎のために食べにくい。
- 味覚が変わった。
味がしない。/何を食べても苦く感じる。など
- 手のしびれがあって調理がうまくできない。
簡単でおいしい料理が知りたい。
- とにかく何か栄養がとれるものが知りたい。
- 日頃の食事を相談して確認したい。

	個別栄養食事指導	集団栄養食事指導 (糖尿病・生活習慣病)	母親学級
対象患者	外来・入院	入院	外来・入院妊婦
曜日	月曜日～金曜日	月曜日・金曜日	第3木曜日
指導時間	9時～16時	14時30分～15時20分	14時～15時
所要時間	20分～1時間	40分～1時間	1時間程度
場所	外来・入院 栄養相談室	AB病棟4階 カンファレンス室	受付は産科外来 ※年4回マタニティキッチン (調理実習)を実施



島大病院ニュース 2018年1月

ご報告



島大病院ニュース 2018年1月

ご報告



出雲市民フォーラム 「島根大学病院の最新治療」2017冬を開催しました

12月23日(土)に、当院が主催する出雲市民フォーラム「島根大学病院の最新治療」2017冬を臨床講義棟1階臨床小講堂で開催いたしました。

このフォーラムは、日ごろからお世話になっている出雲市民の方々に当院の最新治療を知っていただき、健康の維持に役立てていただきたいとの思いで計画したもので、2017年5月に続き、2回目の開催となります。

当日は、多くの方々にご来場いただき、それぞれの最新治療に耳を傾けていました。

このフォーラムは、今後も継続的に開催する予定です。

講座内容

① 呼吸器疾患の最先端医療：肺がん、気管支喘息、肺線維症

呼吸器・化学療法内科 教授 磯部 威



② 運動器疾患に対する最小侵襲手術と再生医療について

整形外科 教授 内尾 祐司



③ 女性にやさしい最先端のお産とがんの治療

産科・婦人科 教授 京 哲



医師会・歯科医師会会員の方限定 休日人間ドックを実施して

臨床検査科 助教 しおた ゆり
塩田 由利

医師会・歯科医師会会員の先生方に受検していただきやすいようにと日曜日に実施しております休日人間ドックは、今年度で4年目を迎えました。お陰様で今年度も多くの先生方に受検頂き、さらに毎年受検していただく先生方も増え、心より御礼申し上げます。

今年度は新たに婦人科ドック(6月のみ)を追加し、女性の先生方に大変好評をいただきました。スムーズに検査を受けていただけるようにお一人毎の検査スケジュールに配慮し、医療サービス課、光学医療診療部、放射線部、検査部スタッフが事前に打ち合わせを

行って年々改良を重ねております。少しお待ちいただく場面もありましたが、受検後にご協力いただいたアンケートでは、概ねご満足いただけたようです。得られたご意見やご要望に応えられるように、大学病院ならではのハイレベルな休日ドックへと益々充実発展させていきたいと思っております。先生方は日々診療の忙しさで自己健康管理が後回しになることも多いのではないのでしょうか。当院ドックが多忙な先生方の健康チェックにお役にたてれば幸いです。次年度もお待ちしておりますので、ぜひ受検してください。

項目			26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
基本項目			10	44	59	62
オプション 項目	癌コース	胃がんドック	9	29	33	33
		胸部ドック	3	20	20	28
		乳がんドック	1	8	8	10
		婦人科ドック				6
	動脈硬化 コース	心臓ドック	2	21	21	22
		動脈硬化チェック	2	23	25	28
	脳ドック		6	25	25	24
	頸椎症ドック		1	7	4	7
	腰椎症ドック		1	7	4	9
	骨粗鬆症ドック			10	6	7
	上腹部ドック		8	26	37	30
	生活習慣病遺伝子ドック				17	5
合計			43	220	259	271

【26~29年度】休日人間ドック実施件数

- ・26年度より医師会会員休日ドック開始(2回実施/年)
- ・27年度より歯科医師会会員も対象に(3回実施/年)
- ・28年度より生活習慣病遺伝子ドック追加
- ・29年度より婦人科ドック追加(6月4日のみ)
- ・29年度:6月4日・7月23日・11月19日実施

問合せ先 臨床検査科 TEL&FAX: 0853-20-2559 dock@med.shimane-u.ac.jp

留守電にお名前・連絡先・ご用件をお話し下さい。後日担当者から連絡致します





島大病院ニュース 2018年1月

ご報告



平成29年度 消防訓練を実施しました。

よねはら まさたか
会計課施設管理室 室長 米原 昌隆

当院は、消防法に基づく特定防火対象物（不特定多数のものが出入する施設等）に指定されており、年2回以上の消防訓練の実施が義務付けられています。

今回は、11月16日（木）に実施しました本年度2回目の訓練（参加者80名）について報告します。訓練は、深夜に発生した病院火災に対応した「通報・連絡」、「初期消火」、「入院患者さんの避難誘導」を実施し、自主防火体制の強化と防火に対する意識の高揚を図ることを目的としており、出雲消防本部の協力・指導を得て行ないました。

火災報知機の異常発生警報と同時に、火災現場の病棟看護師が火災の発見、通報、初期消火を行ない、看護師長当直者の指示により、医師当直者、夜勤看護師、看護師宿舎入居者が模擬患者の避難誘導を行ないました。時を同じくして自衛消防隊本部を病棟南側駐車場に設営し、出雲市消防本部と連携し、情報の収集・確認等を行ないました。更に逃げ遅れた患者さん1名がC病棟5階最寄りの屋上庭園に避難した想定で消防本部のはしご車で地上5階から救出する訓練も行ないました。

訓練終了後に出雲市消防本部から講評がありました。規模の大きな病院では患者さん等の自力で避難することが困難な方もいるので、いかに迅速に救出して避難誘導するか、防災センターと現場付近のスタッフステーションとの連絡体制や消防隊と防災センターで情報を共有することがポイントとなる。更に避難経路が二手に別れる場合は誰かが明確に指示できるとは限らないので、自己判断で行動できるように職員各自で判断力を養っていただきたい等の指摘をいただきました。

当院としては、毎年訓練を体験することで、まずは各職員が実際の火災への対応力を身に付けることを目的とし、今後も実りのある訓練にしていきたいと思っております。



島大病院ニュース 2018年1月

ご報告

平成29年度医療安全・質向上のための相互チェック及び特定機能病院間相互のピアレビュー実施について

医療安全管理部 部長 もりた えいしん
森田 栄伸

大学附属病院等において医療安全に関する重大な事案が発生したことを踏まえ、特定機能病院の承認要件が見直され、平成28年6月に医療法施行規則の一部改正の厚生労働省令が発令されました。これにより「特定機能病院間相互のピアレビュー」を行い、下記の5項目について助言を受けることになりました。

- 1.インシデントやアクシデントの報告等の状況
- 2.医療安全管理委員会の業務の状況
- 3.医薬品等の安全体制の状況
- 4.高難度新規医療技術又は未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否等を決定する部門の運用状況
- 5.外部監査委員会の業務の結果及び監査委員会からの指摘の対応状況

また、平成12年度から国立大学病院間で行っている「医療安全・質向上のための相互チェック」を併せて本年度は行うこととなりました。本年度の相互チェック重点項目は「画像診断レポート等の確認に関する安全対策」でした。当院は熊本大学から「医療安全・質向上のための相互チェック」、「特定機能病院間相互のピアレビュー」を、平成29年11月24日に調査頂き無事終了しております。また、我々島根大学は琉球大学医学部附属病院を平成29年11月27日に訪問・調査し、結果報告を致しました。

訪問調査の講評として、「医療事故防止対策マニュアル、未承認医薬品使用の審査体制は適切に整備され実施されているが、画像診断レポートの確認漏れに対するチェック体制の構築、高難度新規医療技術の運用に関する整備については改善すべき点がある」などの指摘をいただきました。

相互チェック・ピアレビューで指摘頂いた内容を改善しながら、より良い医療安全環境の整備に邁進する所存であります。



平成30年1月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



平成30年1月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2018年1月

ご報告

口腔がん集団検診で早期発見を！

せきね じょうじ
歯科口腔外科 診療科長 関根 浄治

口腔がんの発症率は全がんの約1～2%にすぎませんが、本邦での罹患者、死亡者はともに増加傾向にあります。また、発見される多くは進行症例で、予後不良となることも多く、早期発見が望まれます。しかしながら、本邦においては国民の口腔がんに対する認知度は低く、口腔がん検診は定着していないのが現状です。

当講座では、口腔がんの啓発と早期発見を目的に、2010年より島根県で「口腔がん集団検診」を行っています。この検診では、当講座より口腔外科専門医師が各地域へ出向き、検診を行い、必要があれば細胞診検査をし、後日結果を返送しております。

本年度は正式に島根県の後援を得て、11月23日に出雲市にて、11月25日に松江市にて実施し、合計約950名の方が受検されました。そのうち1割に細胞診検査を行い、約40例の疑陽性（前癌病変）を検出しました。該当の方には近医口腔外科などの専門機関を受診するようお知らせしています。来る2月3、4日には浜田市、益田市で実施予定です。

今後も口腔がんの啓発と早期発見を目指し、島根県全域で実施して行きたいと考えています。

問合せ先 歯科口腔外科 (医局)0853-20-2301 HP: <http://www.med.shimane-u.ac.jp/oral>



出雲市における口腔がん集団検診の様子



平成30年1月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2018年1月

ご報告



ワークライフバランス週間応募作品の表彰式を行いました

かんた まりこ
ワークライフバランス支援室 室長 神田 眞理子

当院は、すべての職員がやりがいや充実感を感じ、キャリアアップができる職場づくりをめざして取り組んでいます。内閣府も、仕事と生活の両立の実現にむけて国民一人ひとりが積極的に取り組めるよう、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章を策定しています。その取り組みの一環として、平成26年度より11月23日の勤労感謝の日をはさむ一週間をワークライフバランス週間として活動をしています。

今年度は、11月20日～26日をワークライフバランス週間としました。ワークライフバランス支援室と看護部が連携を図り、出雲キャンパス職員全員が働き方について考えるきっかけになればとの思いから、『WLB川柳』『わたしのたからもの写真』『各部署のWLB実践例』を職員より募集し、全応募作品を対象に職員投票を行い優秀作品の選出をしました。そして各賞を決定し、11月29日にWLB週間表彰式を開催しました。井川病院長より、受賞者の職員へ表彰状と副賞が贈呈されました。年々応募作品が増え、作品の内容も充実してきています。特に川柳募集では、各職場でのWLBの推進が浸透してきていることが感じられました。

<WLB川柳優秀作品一覧>

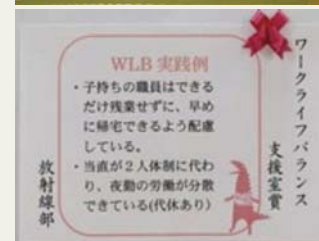
- 井川病院長賞「残業を 減らして和む タごはん」藍ちゃんさん
- 並河医学部長賞「残務ゼロ 今日の采配 神ってる」ゆづきーさん
- 木下副病院長賞「眉間しわ 家へ帰ると 笑いしわ」天の川さん
- 森田副病院長賞「休みましょう」言った自分が 言われたい」横になりたいよさん
- 齊藤副病院長賞「パパ仕事 いたずらするのが 子の仕事」1歳ママさん
- 神田副病院長賞「同僚の 励まし心に 里へ飛ぶ」博多生まれの孝行娘さん
- 長塚事務部長賞「産休中 産休サンキュー んなわけない」まゆゆさん

<WLB実践例 好実践例>

- WLB支援室賞
「放射線部」
・子持ちの職員はできるだけ残業せずに、早めに帰宅できるよう配慮している。
・当直が2人体制に代わり、夜勤の労働が分散できている(代休あり)

<「わたしのたからもの」写真優秀作品>

- 看護部PNS推進委員会賞
「アンパンマンを寝かしつけ」 S.Fさん
“3才の娘がいつも寝かしつけ。疲れてもこれを見るとほっこりです。”



平成30年1月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





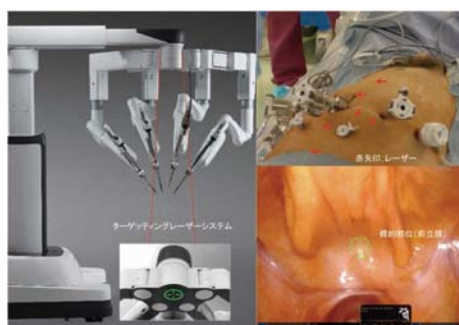
島大病院ニュース 2018年1月

お知らせ

第4世代の手術支援ロボット 「ダ・ヴィンチXi」を用いた 泌尿器がん手術開始のお知らせ

泌尿器科 診療科長 しいな ひろあき
椎名 浩昭

当院では昨年11月に第4世代の手術支援ロボット「ダ・ヴィンチXi」を山陰地方で初めて導入しました。2012年11月に「ダ・ヴィンチS」を導入し、現在までに297例のロボット支援前立腺全摘術(RALP)と29例のロボット支援腎部分切除術(RAPN)を施行しています。今回導入した「ダ・ヴィンチXi」では「ダ・ヴィンチS」と比較して、1)ターゲッティングレーザーシステムで確実にポートを配置できる、2)4つ全てのポートから内視鏡挿入が可能で、手術部位を多方向から観察できる、3)ロボットアームのスリム化・可動性の改善によりアーム同士の干渉を劇的に回避できる、など利便性が大幅に向上しました。一方、ソフト面では1)術中のUS画像や術前に画像処理した三次元構造のCT画像を手術操作画面上へ同時に描出することができる、2)ICG(インドシアニンググリーン)投与によりリンパ節を直接確認しながら正確なリンパ節郭清ができる、など手術を行う上で際立った利点があります。昨年11月以降、当院で「ダ・ヴィンチXi」を使用したロボット手術症例は、いずれも術後経過は良好です。ソフト面とハード面の両者が飛躍的に進歩したダ・ヴィンチXiを用いることで、手術時間の短縮と所要所での的確・確実な手術操作が可能となり、手術の精度、安全性はさらに向上しています。限局性前立腺癌あるいは転移のない小径腎癌(7cm以下)症例がございましたら、これまで以上に高度で充実した優しい医療サービスを提供できる当院に是非ともご紹介頂きますようお願い申し上げます。



1)ターゲッティングレーザーシステムにより
確実にポートを配置することができる。

ポートと標的部位との位置関係の把握が容易
となり、正確な手術操作が可能となる。

2)手術操作モニター上に、術中US画像や術前CT画像を同時に描出することが可能で、正確で安全な医療サービスを提供できる。



周囲との癒着が強い限局性前立腺癌症例で、術中USを用いて直腸と膀胱との境界を把握した。

小径腎癌症例で、共に術中US画像と術前CT画像を同時にモニターに描出することで腫瘍と正常腎実質との境界を把握しつつ安全・確実に腎部分切除を行なった。

お知らせ
島大病院ニュース

平成30年1月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2018年1月

ご報告

新版病院機能評価受審に向けた キックオフミーティングを開催しました。

病院医学教育研究センター センター長 ひろせ まさひろ
廣瀬 昌博

わが国では日本医療機能評価機構(JQ)による病院機能評価認定事業が1997年に開始されて20年となります。来年度から、病院種別に一般病院3(特定機能病院版)が追加され、本院は、その受審および認定に向け準備を進めています。

その一環として、11月30日「病院機能評価受審に向けたキックオフミーティング」を開催しました。冒頭、井川病院長から、「島根県唯一の特定機能病院として、その使命を果たすべく受審に向け万全の態勢で臨んでください。」との挨拶がありました。研修内容は、前回更新から5年が経過し、一部の職員は初めての経験であり、また、受審には全職員の意識の方向性を一致させる必要があります。そこで、1)病院機能評価とは?、2)病院機能評価の概要および3)一般病院3についてなど、初心者向けの研修会となりました。

JQによる認定病院数は2181病院(国内全病院数8439、認定率25.8%、2017年12月1日現在)で、減少傾向にあります。しかし、JQによりますと、平成29年6月の医療法改正により、特定機能病院の承認要件として第三者評価が求められることから、特定機能病院による受審が増加しているとのことです。一方、島根県下の認定病院数は、2009年が最多で21病院、その後徐々に減少し、2014年15病院でしたが、評価体系(第3世代ver.1.0)の導入後5年が経過したこともあって、以前認定されていた病院受審・認定が徐々に回復しつつあります。

さて、特定機能病院は主として高度な医療や社会的役割を担う病院であり、JQでは「次世代医療機能評価のアジェンダ」として、「地域医療の質向上に寄与するための評価」を掲げています。従来の一般病院2では適正に評価できないことから、ガバナンス機能を重視した設定として、病院種別に一般病院3を加え、病院の役割・機能に応じた評価方法の見直しが図られています。

そのようなことから、審査当日のみの状態ではなく、①定常的な状態の確認、②部署訪問先の追加、③患者視点の評価の強化、④病院幹部との面談などを導入しています。また、審査は、サーベイヤーとして従来の診療、看護、事務部門に加え、薬剤と医療安全の専門家を追加し、訪問病棟は8病棟程度、ケアプロセスとともに医療安全ラウンドが実施されます。

---当日の研修会には600名近くが参加し、多数の方が立ち見になるなど、本院職員の受審への意気込みを感じさせる研修会となりました。



問合せ先 医療サービス課 医療安全支援室 TEL:0853-20-2091

ご報告
島大病院ニュース

平成30年1月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2018年1月

お知らせ



JAキャッシュカード(現金引き出しのみ)が利用できるようになりました。

従来より、附属病院内外からJAキャッシュコーナーの設置について要望が寄せられておりましたが、JAしまね出雲地区本部と協議を重ねた結果、12月18日(月)よりA・B病棟2階に設置しております山陰合同銀行のATMの1台を山陰合同銀行とJAで共同利用することが可能となりました。以下の点をご理解のうえ、ご利用願います。

- ① 既設のATMのうち、正面を向いて右側のATMが山陰合同銀行とJAの共通ATMとして利用できます。(正面を向いて左側は従来のとおり、山陰合同銀行専用ATMです。)看板や床表示で確認してください。
- ② 共通ATMでは、JAカードによる引き出しのみ可能です。
入金・振り込み・記帳等は利用できませんので、注意してください。
- ③ ATMの営業時間は次のとおりです。
平 日:9:00~18:00
土曜日:9:00~14:00
- ④ 共通ATMでJAカードを利用した場合、ATMの営業時間内であれば手数料は無料です。
ただし、山陰合同銀行専用ATMでJAカードを利用した場合は、有料となりますのでご注意ください。



お知らせ
島大病院ニュース

平成30年1月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2018年1月

お知らせ



患者さん専用立体駐車場の身障者専用スペースを増設します。

会計課施設管理室 室長 よねはら まさたか
米原 昌隆

患者さんの声で、受診のため来院しても「駐車場がいっぱいで止められない」、また、「障がい者なのに思いやり駐車場が空いていない」などの声が多く寄せられていました。患者さんの利便性を考慮し、昨年度、第二研究棟の北側に患者専用駐車場を整備し、75台分のスペースを確保しました。これにより、患者さんからの駐車場についてのお叱りのお言葉は大幅に減少しましたが、立体駐車場に設けている【車イス専用の駐車場】、【思いやり駐車場】に関しては、スペースが足りないとのこと意見が現在も寄せられています。患者さんのご意見を真摯に受け止め、今年度は立体駐車場の身障者専用スペースを増設する計画としました。完成は本年3月を予定していますので完成まで今しばらくお待ちください。

【立体駐車場整備計画】

- 車イス専用駐車場 11台から21台へ 10台増設
- 思いやり駐車場 9台から12台へ 3台増設

身障者スペースを増設したことにより、一般車両が駐車できるスペースが18台減りますが、新しく完成した高度外傷センターの西側の駐車場が工事用地から34台駐車できる患者専用駐車場を確保しました。



また、職員の利便性も考慮し、病院に近い看護師宿舎北側と、研究棟周りに新しく83台駐車できる職員用駐車場もあわせて整備します。

当院は、患者さんに気持ち良く来院して頂き、質の高い医療を受けて頂くことを日々考えます。また、医師・看護師等、職員にもストレスのない環境を提供し、患者さんに高度な医療を提供できる病院を目指します。



お知らせ
島大病院ニュース

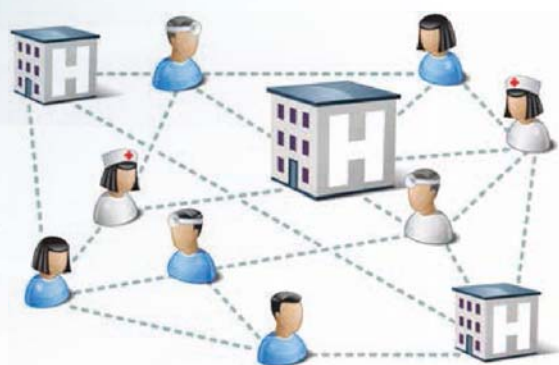
平成30年1月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2018年1月

ご報告



島根大学医学部附属病院 医師派遣検討委員会の活動状況(中間報告)

いかわ みきお
病院長 井川 幹夫

本学は開学以来約3,500人の医学科卒業生を輩出してきましたが、依然として県内医療機関の医師不足と偏在は継続しています。県内の51病院と41の公立診療所を対象として、2017年10月1日に実施された勤務医師実態調査によると、初期研修医と休職者を除いた常勤医師数は1,138人で、2016年よりも26人増加しており、地域枠入試等様々な施策が功を奏していると考えられ、今後も年毎に医師数の増加が期待されます。一方、当院の調査では、2017年9月1日時点で県内の病院、診療所等に勤務している本学卒業または当院勤務経験医師数は492人で、当院在籍医師340人との合計数832人は県内全医師数1,947人(2014年)の43%を占めています。これからも県内医療機関への医師派遣は、当院の重要な機能・役割であり、地域の医師需要、各診療科医師の適正配置に関するデータに基づき、透明性の高い医師派遣を実施するため、当院に医師派遣検討委員会(以下、委員会)を2015年11月に設置したことは以前に報告しております。この委員会の構成員は、病院長、臨床系と地域医療関連の教授、卒後臨床研修センター長、島根県健康福祉部次長、島根地域医療支援センター事務局長です。医療機関から医師派遣要請が委員会にあれば、当該診療科医師の県内、2次医療圏内の分布、年齢、専門医・指導医資格、派遣依頼医療機関の診療実績等により医師派遣の妥当性を検討しています。

2016年12月からは、毎月第1木曜日に委員会を開催し、医師派遣の審議のみでなく適正医師数に関する各種分析方法等も検討しています。2017年3月末時点で常勤医師17名、非常勤医師32名、計49名(クロスポイントメント制度2名を含む)の新規派遣を決定しました。随時、常勤医、非常勤医の派遣要請を受け、毎月の委員会で派遣の可否を審議しています。2017年末には各医療機関からいただいた来年度の常勤医・非常勤医の派遣要望に対応するため、椎名データセンター長の協力を得て、国立大学病院管理会計システムHOMAS2を活用して算出した医師人件費と英語論文数などに基づいて推計した当院各科の適正医師数に来年度入局予定者数を加えた診療科別の派遣可能医師数を決定しています。今後もデータに基づいた客観的で透明性の高い医師派遣を継続することにより、医師の地域偏在の是正等に貢献できるよう努力しますので、医療機関の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。



島大病院ニュース 2018年1月

ご報告



(病院専従救急救命士) ホスピタル・パラメディックが誕生

高度外傷センター センター長 わたなべ ひろあき
渡部 広明

高度外傷センターでは、ドクターカーにおける病院前診療に従事するホスピタル・パラメディックという新たな職種を新設しました。

ホスピタル・パラメディックは救急救命士資格を持ち、ドクターカーによる病院前診療での救急活動に従事します。当院では昨年9月から病院間搬送におけるドクターカー運用を行っておりますが、救急救命士資格を持ったホスピタル・パラメディックが診療に参加することで、より充実した病院前診療が実施されるようになります。近日中に運用開始を予定している、重症外傷症例におけるドクターカー現場覚知時出動(市民からの119番通報と同時にドクターカーを事故現場へ出動させる体制)にむけて、ホスピタル・パラメディックはその役割が大きく期待されています。

病院前救急業務のほかには高度外傷センターと救命救急センターでの医師・看護師の補助業務やドクターカーのメンテナンス業務を行っており、当院救急部門の新メンバーとして活躍しています。





お知らせ

多職種連携を学ぶ地域医療セミナーを行っています

地域医療支援学講座 准教授 さの ちあき
佐野 千晶

今年度の地域医療支援学講座の「地域医療セミナー」は、多職種連携の視点をもって実施しています。医学部学生、職員の中でも、多職種連携を一生懸命にやっている人もいるし、全く関心がない人もいるかもしれません。当院においては、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、PT、OT、ST、MSW、栄養士、心理カウンセラー、事務職などさまざまな専門職が連携して、患者さん中心の医療を形成しています。そこで、地域医療セミナーでは、さまざまな職種や立場の講師をお招きしてお話を伺っています。

現在の医学教育においては、IPE(interprofessional education, 専門職連携教育)、つまり患者さん・利用者の方中心の保健・医療・福祉の実現のために学生、教員、実践者がお互いに、お互いのことをお互いから学びつづけることが重要視されています。医学生だけでなく「学びたい!」の気持ちのある職員の皆様ならびに学外医療関係者のご参加を歓迎します。是非、career@med.shimane-u.ac.jpに参加のメール連絡をして足を運んで下さい。加えて、講師立候補・ご推薦についてもお知らせ下さい。

■ 平成29年度 地域医療セミナー講師一覧

平成29年 4月26日(水)	角田 耕紀	飯南町立飯南病院 院長
平成29年 6月20日(水)	三原 佳代子	松江市社会福祉協議会 湖南地域包括センター MSW
平成29年 7月12日(水)	山口 拓也	加藤病院 医師
平成29年 9月22日(金)	齊藤 稔哲	宮城県気仙沼市立本吉病院 院長
平成29年 10月18日(水)	矢野 彩子	壽生会 寿生苑 言語聴覚士
平成29年 11月24日(金)	鈴木 賢二	町立奥出雲病院 院長
平成29年 12月15日(金)	増野 純二	島根県立中央病院 地域医療科部長
平成30年 1月23日(火) 18:00~19:30	森脇 繁登	島根大学病院 リハビリテーション部 主任作業療法士
平成30年 2月16日(金) 18:00~19:30	飯島 献一	津和野共存病院 副院長

敬称略

